

小淵沢に移住する前は東京の西のはずれ、八王子市に住んでいました。ですからこの「風の通り路」の題字の下住所は第一回目は八王子市でした。その八王子市宛てにお会いしたこともない方から通信の返事をいただいた時のうれしさは、今でもはっきり覚えています。今回その八王子にある高尾山に久しぶりに登ったものですが、その当時のことをあれこれ思い出しました。都心からそう遠くなく、四季折々いろいろあるコースが楽しめる高尾山。その貴重な水源平動・植物がいつまでも豊かな状態のままでありませうように。

# 早春の高尾山ハイク

## 稲荷山、薬王院巡る

3月15日 「八ヶ岳歩こう会」が高尾山に登る例会を企画しました。高尾山は私たちの庭みたいなもの？下見に押



しかけ同行させてもらいました。内心「庭みたいなものと言っても15年以上も前の話だからなあ・・・」「それに最近ガイドブックのミシュランが★★★で紹介してからドット観先客が押し寄せているって話だしなあ・・・」少し不安も感じつつ出かけました。集合場所はJR中央線・穴山駅。ここは駐車場が広くて歩こう会メンバーが甲府や東京方面の例会に参加するのに便利でよく使っています。小淵沢から中央線沿いに韮崎まで続いている県道・七里岩ラインを走り、長坂・日野春駅脇を抜けると次は穴出駅です。30分かかりました。担当のWさんが「青春18キップ」を買っ

### 青春18切符・満員電車で東京へ

歩いてくれたので、きょうは帰るまで一緒に行動です。午前7時15分、穴山駅発の普通列車に乗り込みます。甲州街道で歩いた道を確認しながらの2時間余の旅。午前9時24分JR高尾駅に到着。

駅前から国道20号に出て、高尾方面に向かって歩き出しました。30分弱で京王線・高尾山口駅前に着きました。駅前の広い駐車場には大型バスや乗用車が停まっています。これから高尾山へ登ろうという登山者グループがたくさんいました。駅前を抜けると高尾山へ登る参道に出ました。お土産物店、食堂が軒を連ね、その先に高尾山頂へ登っていくケールカーの清滝駅、エコーリフトの山麓駅があります。この駅舎の前から右手に登っていく1号路、左手から山頂へ登っていく6号路と稲荷山コースの登山道が続いています。この目当初予定していた6号路のびわ滝コースは途中で登山道の崩壊箇所があったため、通行止めになっていたため、「稲荷山コース」を歩くことにしました。登山道に入ると入り口からすこし急な登りが

続きます。何度も歩いたとしても15年も前のこと。ほとんど記憶に残っていません。「あれっ？こんなに急な登りだったっけ？」歩き始めの10数分で早くも息が切れる情けない有様。それでもゆっくりにゆっくりに登っていくうちに体も登りに馴染んできて回りの景色を眺める余裕が出てきました。

### 山頂直下に2百段の急階段

1時間ほどでこのコースのほぼ中間にある稲荷山展望台に着きました。東屋があって小休止です。この辺りまで登っていると、コースの右手は深い樹林の中ですが、左手は樹林の上から遙か遠くの八王子の市街地やその向こうに霞んでいる町並みが望めました。回りの眺望を楽しんだ後、山頂目指して出発。登山道も時折平坦な歩きやすい道や下り道があったりして喜ぶと、また急な登りの階段があったりして油断できません！今は通れないびわ滝コースとの合流地点から20分ほど登ると登山道が少し広くなるとベンチがあり、幾つかの登山グループが休んでいました。それもそのはず！前方

### 釜山港に帰れウォークに意義ありの巻



小淵沢にあったおいしい韓国家庭料理のお店釜山港が高根町に移転。私たちはもちろん「追っかけ」に。国道141号線沿いのお店に行ってみたらまわりがウォーキングの宝庫と言った場所。これはウォークの例会に最適！と歩こう会の会議で新しいウォークの提案をしました。題は「釜山港に帰れ」です。普通そういう提案をするときは、集合・解散場所や、大体のコースと距離等を発表するのですが、その時は日にちとゴールだけ。みなさんに笑われました。手を上げた以上はコースを考えなければと、近くをウロウロしてみたら、なんと！いい道が見つかりました。ふかふかの落ち葉や土の道もあり幹線道路はほとんど通らずに釜山港まで歩けるのです。さらに集合場所の隣に図書館があり、なんと郷土の生んだ浅川兄弟の資料館が併設されているではありませんか！浅川兄弟は戦争中に朝鮮に渡り、朝鮮の陶器の美しさを日本に紹介するなど日韓友好の架け橋となった人々です。韓国の食文化を訪ねるウォーク(?)であれば、この浅川兄弟資料館に寄らねば！ということで、たいへん意義深いウォークとなったのであります。

### 天狗が護る薬王院

11時50分、山頂です！整備されて広くなった山頂には観光客がいっぱい。ロープウェイやリフトで山頂にやって来た人も多いようです。山頂の売店でおでんとビー〇を購入。喉を潤し、昼食を食べべからグルツと山頂の広場をうらへつづく

た全部で225段！

# 高尾山



表からつづく  
を一周、展望を楽しみました。帰りは薬王院を通る道を降りました。山頂から直ぐ下には薬王院の「奥の院」。そこからさらに下っていくと社の屋根が幾つも見え、本堂前に出ました。境内には高尾山の守護神の天狗の像が本堂脇や

参道に立っていて、辺りににらみを利かせています。大天狗、小天狗の像はこの山が飯縄権現を祀る山であり、修業に励む修験僧と同一視されていたそうです。薬王院からさ下に下っていくと「蝟」の足のように何本もの太く大きな根をくねらせた杉・天然記念

物の「たこ杉」が茂っていました。その前を通り過ぎるとケーブルカーの山頂駅とリフトの山上駅の前に出ました。この駅の少し手前の階段を上った所にあるレストランの屋上に上がるまで遥か彼方に東京の町並みが霞んで見えました。ここは夏になると屋上ビアガー

デンで賑わうところですよ。大がりの圏央道のジャンクション工事も見え、高尾山の豊かな自然は大丈夫なのかちよつと心配になりました。

## 今年最初の花見

山頂駅からはいくつもある高尾山登山ルートのうち、1号路を下っていきました。1号路は車でも上れる舗装道路になっていて、歩くにはちよつと単調。それでも鬱蒼とした高尾山の樹林に抱かれながらしばらくいくと沢沿いの道となり、ゴールは間近。1時間弱で麓の清滝駅・山麓駅に着きました。参道を抜け、京王線の高尾山口駅前に出たのが、午後2時。「あれっ？桜が咲いているんじゃないの」の声。たしかに駅前の小公園の一角に咲いているのは桜でした。早咲きの種の桜でしたが、今年一番の桜の花見をお土産に帰路につきました。



「昨年北杜市で上映した記録映画『いのちの作法』―生命行政を継ぐものたち―」のスタッフの多くが係わった「葦牙―あしかびー」という映画が完成し、今、各地で手作りの上映会が開かれているそうです。「いのちの作法」にも出てくる養護施設「みちのくみどり学園」を撮った記録映画で、副題は「こどもが拓く未来」です。

## 葦牙を北杜市で自主上映!

それでもお父さんからの電話に、もうすぐ退園できる？と何度も確認する幼い女の干や、「将来お母さんを探す」と話女生徒の思いなどをカメラは淡々と写しだします。この学園もすごいんです。「いのちの作法」にも通じる人間力というようなものを感じました。少人数の子供たちを沢内に連れていき、民家で共同生活体験するところなどは、まさしく「いのちの作法」の中の場面を思い出しました。葦牙とは葦の若芽のこと。「水辺の葦が芽吹き、水面にその尖った新芽が顔を出す。その尖った新芽を牙に見立てたもの」だそうです。

「みちのくみどり学園」はもともとは病気の子供たちのための施設だ。だそうです。今は7割は虐待に合った子供たちだそうです。こういう施設に入れる「幸運な」子供たちは4万人位で、その何倍もの子供たちが見過ごされ、命を落とす子供は3日に1人、とのことです。「5歳・10歳の子供たちが背負ってきた体験は、60余年の自分の人生より重いかもしれない、それにどう向き合おうか」というようなことを小池監督さんが挨拶でおっしゃっていました。まさしく……子供たちは元気で、賑やか。けんかしたり甘えたり、とパワーが溢れ、映画の印象は決して暗いものではありません。

なんと、なんと、この映画も私たちの仲間です。自主上映することになりました。この八ヶ岳南麓にも、心響き合う人々がたくさんいると感じられた前回の上映会。その芽を大切に育てていきたい、と思っております。生命の息吹「葦牙」のように。  
5月23日(日)長坂コミュニティホールにて。チケット(前売り)1000円です。プロデューサーの都鳥兄弟の挨拶を予定しています。